

# 造影CT検査の説明書・同意書

CT検査では、より正確な診断を行うために静脈内に造影剤を投与しての造影検査を行う場合があります。当院では、非イオン性ヨード造影剤を用いております。イオン性ヨード造影剤もありますが、これは非イオン性造影剤に比べ安価ですが副作用が多く、当院では使用しておりません。この非イオン性ヨード造影剤を、1秒間に1～3cc程度の注入速度で、総量75～150cc（通常100cc）を静脈内投与して造影CT検査は行われます。（疾患によって、また体格によって注入速度や使用量は異なります。）

但し、重症の腎機能障害やヨード造影剤への重症アレルギー歴、重度のアレルギー体質（喘息、アトピー性皮膚炎、薬剤、飲食物等）がある場合には、造影剤を投与できず造影検査を行えません。

また、造影剤投与による合併症・副作用の可能性もあります。造影剤注入時・抜針直後の合併症としては、造影剤の静脈外皮下への漏出や抜針後の小出血などがあります。造影剤によるアレルギー反応（直後～数日後）や血管反射による副作用・合併症としては、発疹、咽頭・喉頭違和感、くしゃみ、咳、悪心、嘔吐、関節痛といった軽度のものから、呼吸困難、ショック（約2400人に1人）、心停止（約5万人に1人）、死亡（約50万人に1人）といった重篤なものまであります。

なお、CT検査時に放射線科医、その他の医師、放射線科技師、看護師の判断で、検査される患者様の利益のために、造影予定であっても造影検査を行わない事がありますので、ご了承下さい。

以上、造影CT検査において、その利点と造影剤投与により起こり得る合併症・副作用について、患者（ ）様に説明しました。

平成 年 月 日

主治医（担当医）

## 同 意 書

主治医からの説明により、造影CT検査の利点と起こり得る合併症・副作用について理解した上で、CT検査時の造影剤投与に同意いたします。

平成 年 月 日

本人・代理人（患者様との関係： ）氏名